

事例名：調剤薬局全店へ生体認証を導入

ユーザ名：日本調剤株式会社様

システム概要

- コンプライアンスを重視した「自社開発の調剤システム」に、業界ではいち早く“生体静脈認証システム”を採用
- ・調剤・監査・投薬・会計などの各業務プロセス毎の本人確認と、その証跡の保存に、指静脈認証を利用。
 - ・出退勤管理の打刻用途にも指静脈認証を活用。

システム構成

[調剤システム]



構成機器

(ハードウェア) 生体認証装置
日立指静脈認証装置H-1 × 約4,000台

(ソフトウェア) ソフトウェア開発キット
日立セキュアBio API × 1式

情報媒体

バイオメトリクス：指静脈

[業務システム]

[勤怠管理システム]



システムの特長

- (1) 調剤システムの操作における個人認証は、指静脈認証（生体認証）を用いるため、調剤・監査・投薬は、その本人しか行なえないよう徹底している。
- (2) 薬剤師をはじめとする薬局スタッフの勤怠管理にも、指静脈認証（生体認証）を用いており、労働時間の適正管理も可能にしている。

導入の背景

医薬品の調剤は、人的要素が必ず介在する業務であり、ヒューマンエラーを限りなく減らすためのプログラムが、システム内に多数織り込まれている。個人情報のかたまりである処方情報も暗号化し、厳重なセキュリティ体制を敷いている。コンプライアンス（法令遵守）を重視した調剤システムを構築しており、調剤業務の透明性を確保するため、業界ではいち早く生体認証システムの採用を2011年4月に決意した。

課題

- (1) 認識率の高い生体認証の選択。
- (2) 複数の業務システムに、生体認証のソフトウェアの組込みが必要。プログラムの改修が容易なソフトウェア開発キットの選択。

課題の解決

- (1) 指静脈認証装置、指紋認証装置など、さまざまな生体認証装置を対象に比較、調査を行い導入を検討。本人拒否率などの低い、認証率の高い、指静脈認証装置の導入を選択。
- (2) 業務アプリケーションソフトウェアの改修、およびバージョンアップが容易なソフトウェア開発キットを検討。国際規格に準拠した、B i o A P I S D Kの導入を選択。

解決の効果

- (1) 複数の業務アプリケーションソフト（調剤・監査・投薬・会計など）に、生体認証（指静脈認証装置）の組み込みを完了。ログオンの厳格さにより、責任の明確化、セキュリティー（不正利用の防止）の強化が図れた。
- (2) システムへのログオン時に以前は、毎回、パスワードを入力していたが、認証率の高い、生体認証の導入により、認証エラーも少なく、業務効率のUP、利便性の向上にもつながった。

今後の展開

生体認証の導入のみならず、最先端のITおよび長年培ってきたナレッジ資産やノウハウをICTとして、最大限活用することにより、医療としての安全・安心を確保して、日本調剤が提供する医療サービスの質を高めて行く。

導入実績

調剤薬局 および グループ会社（工場、研究所）に、約4,000台の指静脈認証装置を導入済。

参考URL

<https://www.nicho.co.jp/corporate/business/it/>

お問い合わせ先

(株) 日立製作所 IoT・クラウドサービス事業部
エンジニアリングサービス第1本部 セキュリティソリューション部
info-fvu@ml.itg.hitachi.co.jp